

(地Ⅲ98F)
平成27年8月19日

都道府県医師会

感染症危機管理担当理事 殿

日本医師会感染症危機管理対策室長

小 森 貴

第23回世界スカウトジャンボリー大会参加者における
侵襲性髄膜炎菌感染症の発生について

本年7月28日～8月8日に山口県において開催された世界スカウト機構主催第23回世界スカウトジャンボリー大会にスコットランドから参加した者が、帰国後に髄膜炎菌感染症と診断され入院中である旨、スコットランド当局から厚生労働省に情報提供があり、京都府、兵庫県からの参加者が上記患者との濃厚な接触の可能性があったことから、本会より8月14日付文書をもって開催地の山口県医師会ならびに当該2府県医師会に対して情報提供しているところです。

その後、スウェーデンの参加隊からも発病の疑いがあることが判明したことから、今般、別添のとおり厚生労働省より事務連絡がなされましたので情報提供いたします。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知のうえ、貴会管下郡市区医師会、関係医療機関等への周知方ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

事 務 連 絡
平成 2 7 年 8 月 1 9 日

各 { 都 道 府 県
保健所設置市
特 別 区 } 衛生主管部（局）
感染症対策課 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

第 23 回世界スカウトジャンボリー大会参加者における
侵襲性髄膜炎菌感染症の発生について（情報提供）

標記について、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟から、別添（写）のとおり発表がございましたので、情報提供します。

貴課におかれましてもこのことを御承知おきいただくとともに、貴管下医療機関に対し、本件について周知いただきますようお願いします。

参考：「第 23 回世界スカウトジャンボリー」

URL：http://www.23wsj.jp/assets/info_zuimakuen.pdf

2015. 8. 18

大会参加者の髄膜炎菌感染症の発生について

第23回世界スカウトジャンボリーに参加したUK派遣団の第66隊（スコットランド）参加者が帰国後に髄膜炎菌感染症と診断され入院中である旨、スコットランド当局から厚生労働省に情報提供があり、8月14日付けでボーイスカウト日本連盟へ連絡がありました（2頁参照）。

すでに ISHIZUCHI サブキャンプ内の隣接サイトでキャンプをしていた参加隊へは兵庫連盟と京都連盟を通じて、また開催県である山口県連盟へは同日にこのことをお知らせしています。

8月18日になり、スウェーデンの参加隊からも発病の疑いがある旨の連絡がありました。これを踏まえて、髄膜炎菌感染症は感染者と濃厚な接触をしなければ伝播しませんが、大会に参加された皆様に、万一体調の変化を感じた際には、医療機関を受診してください。

髄膜炎菌感染症については、3頁をご覧ください。

この件に関してのお問合せ先

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
第23回世界スカウトジャンボリーオフィス
〒113-8517 東京都文京区本郷 1-34-3
TEL: 03-5805-2569 FAX: 03-5805-2908
E-mail: 23wsj@scout.or.jp
ホームページ: <http://www.23wsj.jp/>



健 感 発 0814 第 1 号
平 成 27 年 8 月 14 日

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟理事長 殿

厚生労働省健康局結核感染症課長



第 23 回世界スカウトジャンボリー大会参加者における髄膜炎菌感染症の発生
について（注意喚起）

世界スカウト機構が主催した第 23 回世界スカウトジャンボリー大会にスコットランドから参加した者 2 名が、帰国後に髄膜炎菌感染症と診断され入院中である旨、スコットランド当局から厚生労働省に情報提供がありました。

髄膜炎菌感染症は容易に感染するものではありませんが、上記患者との濃厚な接触があった参加者については、感染のリスクが考えられます。

貴連盟におかれては、当該大会の参加者に対して、髄膜炎菌感染症の特徴（別紙参照）と併せて、体調の変化に注意すること、体調に変化を感じた際には早期に医療機関を受診することについて注意喚起いただくよう、特段の御配慮をお願いします。

髄膜炎菌感染症について

- 髄膜炎菌は健康な方の喉にも存在していることのある細菌です。
- 髄膜炎菌感染症は、全く症状が出ない場合や、咽頭痛などの軽い上気道症状のみが出る場合がほとんどですが、稀に血液や中枢神経に感染が広がって、発疹（紫斑）、頭痛のほか、高熱、嘔吐、意識障害などの重い症状を呈する場合があります。
- 髄膜炎菌感染症は、麻疹などの空気感染により伝播する疾患と異なり、一つ屋根の下での同居生活（テントを含みます）をする、飲み物の回し飲みをする等により、感染者の唾液やしぶきなどの飛沫に濃厚な接触をしなければ伝播しません。また、髄膜炎菌感染症は抗菌薬による感染後の予防や治療が可能で、早く診断し適切に治療を行えば、治癒可能な病気です。